

夏の高原で光り、舞う

標高1500mの

ヒメボタル

ヒメボタルが自生する森と水と空気を守ります。

からまつ平ヒメボタル保存会



一般社団法人 蓼科白樺高原観光協会

〒384-2309 長野県北佐久郡立科町大字芦田八ヶ野1045

TEL.0267-55-6654 FAX.0267-55-6653 e-mail:sksa@sas.janis.or.jp http://shirakabakogen.jp/

※写真はイメージです



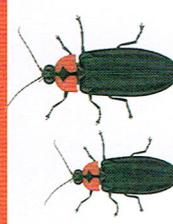
蓼科白樺高原観光協会は、「女神湖カーボン・オフセットエコチャレンジ」を実施しています。これは、リゾートエリアでは日本初の、森林保護とCO2削減の取組みモデルであり、ヒメボタルが自生する環境を守ることにもつながります。

ヒメボタル

ヒメボタルは陸生ホタルです（ゲンジ・ヘイケは水生ホタル）。成虫のオスの大きさは約9mm、メスは7mmと、とても小さいので「ヒメ(姫)ボタル」と名付けられました。成虫のメスや幼虫は、落ち葉の下や、土の中で暮らします。ベッコウマイマイやオカチヨウジガイなど、陸生の巻き貝を食べて成長します。1匹のヒメボタルが成虫になるまで、およそ50個の巻き貝が必要です。

成虫のオスは、森や林の中を1mほどの高さで、約0.8秒に1回、光を点滅させながら飛びます。メスは飛びません。成虫になってからの寿命は、オスは7日、メスは2～3日です。

ホタルの大きさ（実物大）

		
ゲンジボタル	ヘイケボタル	ヒメボタル
オス 14mm メス 18mm	オス 10mm メス 12mm	オス 9mm メス 7.5mm

標高1500mのヒメボタル

八ヶ岳中信高原国定公園の中にある白樺高原は、標高1500m～1530mに位置し、夏でも天然クーラーに包まれたような涼しさです。

蓼科山の雪解け水が地下を通り、やがて湧水(湧き水)となります。自然の恵みのおかげで、白樺高原や立科町全体の水道水は100%湧水です。蛇口をひねれば湧き水。超軟水のミネラルウォーターです。

四季の彩りが美しい白樺高原で、大昔から自生するヒメボタル。きれいな水ときれいな空気、人間が入らない山だからこそ生まれたヒメボタル。たった2週間ほどの出会いです。小さな体で一生懸命光る姿に出会ってください。

ヒメボタルからのおねがい

- 照明は点けないで。
自動車、懐中電灯、デジタルカメラ・携帯電話の液晶画面など
- 私たちを捕まえないで。
- 林の中に入らないで。
- ゴミを捨てないで。
- 音や声を出さないで。
- 夜は写真を撮らないで。

